

籠踊。下賀茂ハ子ズ踊。淨土寺村念佛踊。白川シヨガイナ踊。祇園町ノ踊。右每七月十五日十六日ノ夜也。

〔市中取締類集〕一盆祭りと唱、七月十四日、十五日亥刻過ハ月夜に乘じ、桶町南横町邊江諸職人共、夜通し戯踊はやし騒歩行、表住居之もの共、臥兼難儀仕候由、依之寛政初年頃ハ、南北御用掛ハ、嚴敷御差留、兩大口殿御役中、徳兵衛引受、右體大行之儀、仕間鋪、御請證文差上來、其後等閑に相成、去亥年は、南臨時御廻り方ハ、五郎兵衛を以、御差止證文取置申候趣に御座候。略中

丑天保十二年七月

〔甲子夜話十六〕諺ニ、鼻ノ先ノコトモ知ラスト云ヘルガ予、浦清松ガ淺草邸ノ西隣ハ、弘前侯輕津ノ中邸ナリ、其邸ニテ七月十五日、十六日、十七日ノ夜ハ踊ヲナス、毎年コノ如シ、コレ其領國ノナラハシト云リ、士分ヨリ下賤マデ皆踊ルコトナリ、其形何ニト定リタルコトモ無ク、思々ノ衣類ヲ著シ、游女又ハ半シタ女、又ハ老人、又ハ乞兒、又ハ妊婦ナドノ、スベテオカシキ容體シテ、鳴モノヲナラシ、囃シテ踊ル、謠フ章モ定リナク、譬ヘバ、婆々ハ腰ハ曲ツタソレノ、ト云ヤウズ、詞ニテ、拍子ヲ打テ踊ルトゾ、候ヨリモ時ニハ、揃衣装ナド、賜フコトモアリ、或ハ四斗樽ノ酒ヲ其マ、下ザレテ、諸人醉ニ乗ジテ踊ルヨシ、多クハ衣服ニ、轡ヲ紋ニツケ、木履ヲハキテ踊ルト云、コレ弘前侯ノ手廻小頭熊谷文八ト云フガ話ナリト聞ヌ。

〔西遊旅譚〕勢州四日市ノ驛より、石薬師ノ間の宿日永村あり、七月十三日、十四日、十五日、盆中ツンク踊とて、小童、或十七八ノ女子、又廿歳ばかりのおのこ、白きさらしノ手拭をほう冠にして、腰に扇をさし、手に手を取て輪となり唱、此一村三四町より、此踊を出す、一町づ、唱文句ちがひぬ。

〔房總志料四上總附録〕一房總南海ノ砂民、其俗盡く南紀ノ人にならへり、如何となれば、賀多須原ノ